



2017年4月3日、「匠匠メガソーラーシェアリング第一発電所」落成式に訪れた小泉氏。細川護熙、菅直人元首相らとともに、メガソーラーシェアリングの門出を祝った。

ソーラーシェアリングは、実に良い発想なんだよ。 自然や農業がいかに大事か分かるようになる。

津田 今回の「ソーラーシェアリング」について小泉純一郎元首相にお話を伺いたいと思います。この仕組みを普及させるためには、何が必要だと思いますか。
小泉 これは政治家の習性ですが、地元の町内会、老人クラブ、婦人部といった方たちを対象にしてどう話すかを、まず考えます。こうした方々にはカタカナ言葉が通じない。「ソーラーシェアリング」という名前には、そうした視点が無いのが残念ですね。
津田 たしかに普及させるためには名前も大事ですね。
小泉 本当にそう。私が厚生大臣(当時)になった時も「カタカナ言葉が多すぎる。どうして日本語にしないのか」と職員に訴えていた。高齢者の対策を考えないといけないのに、分かりにくいヨコモジばかりだったよ。
津田 コンセプトには大賛成だけど呼び方に課題がある、ということですね。「ソーラーシェアリング」は農地限定でのシステムではなく、太陽光をシェアしたい場所に設置されることを想定したシステムです。農業で活用する場合は、

「太陽光農業」ぐらいシンプルな方がいいのかもしれないね。ところで、小泉さんは「農業を良くするために太陽光発電を使うという発想が良い」とおっしゃっています。政治家として農業についてはどうお考えですか。
小泉 農業は一番大事だよ。食べ物が必要なら生きていけないんだから。「サプリメントを取ればいい」という人もいますが、それは作るんだから。
津田 それほど重要な農業が厳しい環境になる中で、あえて田畑の上に太陽光発電所を作れば、作物もよく育つし、農家も安定した収入を得られるという発想を聞いた時は、正直私も驚きました。
小泉 ソーラーシェアリングは実に良い発想なんだよ。少し日陰ができた方が農作物はよく育つこともある。簡単に導入できるし、設備費も安上がり。これが普及すれば、自然や農業がいかに大事か分かるようになるし、子供たちも直接体験できるようにする。
「核のコントロール」は人間にはできない。
津田 小泉さんは福島第一原発事故の後、フィンランドにある世界

唯一の高レベル放射性廃棄物の最終処分場「オンカロ」を訪れています。私も昨年行きましたが、価値観が変わるくらい衝撃的でした。小泉さんは、そこから人間が核をコントロールするのは無理で、脱原発が必要と判断されたわけですが、それと自然エネを盛り上げることをセットでやるべきだとお考えでしょうか。
小泉 当然、原発をゼロにするのと、自然エネをどう活用していくのかを考えるのは同じこと。人間が生きていくには自然環境が大事なんです。原発は、平時でも海洋汚染などで自然を破壊してしまっている。しかも、いまだに福島第一原発では汚染水をコントロールできていない。
津田 原発推進派の人は、核燃料サイクル技術があるから大丈夫って言っていますけどね。
小泉 「永遠のエネルギー」「夢の原子力」と言われて、1985年に高速増殖炉のもんじゅができた。でも、すぐに故障した。これは全部税金で1兆1000億円がパーです。すでに核燃料サイクルは破たんしているんだよ。
津田 原発の議論では「経済的な理由などもあって日本は脱原発は難しい」という推進派もいますが、

日本には、 ソーラーシェアリングが 必要か？



元内閣総理大臣
城南総合研究所名誉所長
小泉純一郎

ジャーナリスト
メディア・アクティビスト
津田大介

脱原発を訴える小泉純一郎元首相は、ソーラーシェアリングが日本のエネルギー政策でどんな役割を果たすと考えるのか。ジャーナリストの津田大介氏が、その答えを引き出す。

photo: Kazunobu Kataoka text: Kousuke Ooneda

小泉さんは「日本の官僚は優秀だから、やると決めればそのための方策を全力で考える」と言っておられて、説得力がありました。

小泉 2011年3月の東日本大震災から原発推進の理論がおかしいんじゃないかと思い、勉強しました。それで全部ウソだと分かり、「過ちを改めざる、是を過ちという」の言葉を胸に脱原発を目指すことにしたんだ。原発推進派は当時、「自然エネは全電源の2%しかない」とバカにしていた。でも、今や太陽光だけで原発数十基分の電気を賄える。実際、2015年9月までは原発ゼロ、そしていま(2017年9月)は5基の再稼働が認められたが、それこそ「全電源の2%」あるかないかだから、原発がなくても大丈夫だと証明されています。

ハードルとなるのは官僚の「縦割り」問題？

津田 自然エネの活用には、どんな意義があるとお考えですか。

小泉 何より無限の夢があるよね。太陽光、風力だけでなく水力、地熱もある。太陽が陰ったり、風が吹かなかったりしたら発電できない、と主張する人もいますが、蓄電技術も発達している。政府が原

小泉 安倍さんに「官僚に騙されるなよ」と言っているんだけど、わからないんだよ。経済産業省なのか、電力会社なのか、政府なのか、責任の所在があいまいなんだ。これを変えるのは、やっぱり政治の責任だよ。

津田 民間でソーラーシェアリングみたいなのが増えればニーズも高まり、そこに政治が追い付いてくるという側面もあると思います。

小泉 私もそう思います。原発が無くてもやっていけるんだ、農家も自然エネを使うことで色々な農作物を作れるんだという実態が広まっていいでしょう。

津田 一方で、ソーラーシェアリングは官僚の縦割りの問題があります。許可を3年ごとに取り直さないといけないとか、農水省と経産省の連携がうまくいっておらず、導入のハードルが高い。

小泉 この前も千葉を視察した時、そういう意見が出ていたよ。

津田 理解のある農業委員会だといいますが、そうじゃないと認められない現状もある。それを変えるのも政治だと思います。郵政民営化みたいな、なかなか変わらない官の壁がありますが、どうすれば変わるでしょうか。

発電を宣言して自然エネ普及に注力すれば、すべてが賄えるようになるまで100年もかからないと思うよ。

津田 データでもそれが証明されてきたのに、脱原発と自然エネルギーの導入がなかなか進まないのは、経済界が反対しているからですか。何が原因だと思えますか。

小泉 今まで原発事業に関わってきた技術者、研究者、事業者たちが、その仕事を続けていきたいという気持ち強いんだろう。廃炉にしても、事故を起こしていないイギリスでも90〜100年はかか

自然エネルギーの普及を後押しする世論の形成が大事ですね。

ると言っているくらいだから、福島は40年じゃ無理でしょう。メルトダウンの状況も分かっていないんだし。

津田 チェルノブイリだってそうですよ。

小泉 よく40年で廃炉と言ったもんだなあ。その時はみんな死んでいるから責任がないんでしょう。

津田 海外は脱原発に舵を切つて、経済的にも好影響を与えているじゃないですか。小泉さんも安部首相に脱原発を進言したということですが、官僚の言いなりでまだ何もやれていないですね。



小泉純一郎
1942年生まれ。衆議院議員、厚生大臣(第69・70・81代)、郵政大臣(第55代)、内閣総理大臣(第87・88・89代)、外務大臣(第132代)、農林水産大臣(第38代)などを歴任。一般社団法人自然エネルギー推進会議発起人代表。原発ゼロ自然エネルギー推進連盟(原自連)顧問。

津田大介
1973年生まれ。ジャーナリスト/メディア・アクティビスト。ボリタス編集長。早稲田大学文学学術院教授。大阪経済大学情報社会学部客員教授。テレビ朝チャンネル2「津田大介 日本にプラス+」キャスター。J-WAVE「JAM THE WORLD」ナビゲーター。

太陽光、風力、水力、地熱——自然エネルギーは無数の夢がある。

小泉 やっぱり国民の理解と声が最も大事ですよ。電力会社だって、自然エネ活用をやるうと思えば、いくらでも技術はあるんだから。ただ既存の発電所に多額の投資をしているから、今の設備を全部変えるとなると資産が負債になるかもしれないから、そう簡単にはいかないでしょう。でも、それも政治が何とかしないとけない。

津田 やはり、何とかソーラーシェアリングを普及させたいですね。

小泉 全国の取り組みの実態をどんどん紹介するのが大事だよ。各地で色々な方法があると思う。

津田 農業が食を支え、自然エネ活用でエネルギー問題も解決できる。その意味では、ソーラーシェアリングを導入した農家がヒーローになれる環境が大事ですね。この仕組みができれば、ODAで発展途上国にも輸出できますよ。

小泉 原発なんかより設備費用も安いし、よっぽどいいよ。

津田 官僚は現状維持したいという統治機構になっており、それを変えるのは政治ですが、脱原発の受け皿となる政党がない。だからこそ、自然エネ普及を後押しする世論の形成が大事ですね。